

続・新たな冒険への出発 (そしてファイナル!)

加藤由花 | 東京女子大学



2022年4月から、再び会誌副編集長を務めることになりました。7代目となる五十嵐悠紀編集長を3名の副編集長がサポートしていきます。4年前、「新たな冒険への出発」というタイトルで、副編集長就任にあたっての記事を書きましたが¹⁾、冒険でたどり着いた先には、なんと続きがあったのです。これから、新たな体制で、新たな会誌を作り上げていく冒険へと再び出発します。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

私と会誌編集とのかかわりは2013年に始まりました。会誌担当理事として2期4年間、編集委員会委員として1年間、そして副編集長として2期4年間。ふと気づくと10年目に突入しており、最古参の委員になってしまっているかもしれません。当然、このタイミングで退任するつもりでいたのですが、五十嵐編集長からご指名いただき、会誌の次のステージを作り上げていく役割を担わせていただくことにしました。古参委員の私には、これまでの会誌の来し方を振り返り、会誌全体のバランスを見渡しながら、行く末を整えることが期待されているのだらうと思います。フレッシュな新編集長、新副編集長が思い切りチャレンジできる土台をしっかりと作っていただければと思っています。

さて、会誌は「面白く、読んでもらえる会誌」(by 塚本前々編集長)、「日本最大かつ最高の情報系同人誌」(by 稲見前編集長)を目指して常に変わり続けてきたのですが、ここ数年は特に大きな変化の只中にあることを感じています。その1つは「会誌のハイブリッド化」です。記事のデジタル化については、以前から長期的な課題として検討が進められてきましたが、学会の60周年を区切りに、ついに紙媒体とオンライン双方の特性を活かしたハイブリッド構成が実現しました。noteでの記事配信も行われるようになり、Twitterでの情報発信強化とともに、

紙にとらわれないさまざまな形態での情報発信ができるようになりました。形は整ってきたのですが、実はこの試みはまだまだ道半ば。紙の会誌がとても薄くなってしまったことを嘆く声や、PDF原稿が読みにくい等のコメントもいただいています。今後も試行錯誤を続けながら、「情報処理学会ならではの」会誌の在り方、情報の発信の仕方を追求し続けていきたいと思っています。そしてもう1つの大きな変化は、何と云ってもまだ終息の見えないコロナ禍を前提としたさまざまな活動です。対面での活動が制限される中、情報処理技術がこれほどまでに活用されたことはいまだかつてなかったのではないのでしょうか？ コロナ終息後も続けていきたい取り組みがたくさんあります。情報系同人誌として、新しい時代の学会活動、教育・研究活動を発信していくことも重要な役割です。先日お披露目された、情報世界に浮かぶイベントホール「IPSJ VIRTUAL HALL」²⁾での会誌イベント開催など、いろいろな可能性を考えていければと思います。

今回の記事のタイトルは、前回の続編ということで「続・新たな冒険への出発」としました。そして、副編集長3期目となる私にとっては、これが最後の冒険です。ファイナルシリーズを大いに盛り上げていきたいと思っています。これからもどうぞよろしくお願いいたします！

参考文献

- 1) 加藤由花：副編集長就任にあたって「新たな冒険への出発」、情報処理、Vol.59, No.5, p.483 (2018)。
- 2) IPSJ VIRTUAL HALL お披露目イベント開催決定、<https://www.ipsj.or.jp/magazine/IPSJVirtualHall.html> (2022年2月26日)

■加藤由花 (正会員) yuka@cis.twcu.ac.jp

1989年東京大学理学部卒業。同年NTT入社。電気通信大学、産業技術大学院大学を経て2014年より現職。博士(工学)。情報ネットワーク、知能ロボティクス等の研究に従事。本会論文誌編集委員(2007～10)、会誌・出版担当理事(2013～14, 2015～16)等を務める。2018年より会誌副編集長。